

ポルトガル月報

2022年4月

(本月報は月末現在の報道などの公開情報を大使館で取りまとめたものです)

在ポルトガル日本国大使館

【主要ニュース】

【内政】★感染症対策規制の一部緩和及び警戒状態宣言の延長／★第三次コスタ政権、政府プログラムの発表

【外交】★ゴメス・クラヴィーニョ外務大臣、アンゴラへ初外遊

★ゼレンスキー・ウクライナ大統領、ポルトガル共和国議会で演説

【経済】★国内物価上昇に伴う政府臨時対策パッケージの発表／★2022年第1四半期GDPの発表

(上記主要ニュースには以下本文にて★が付されている)

内政

★感染症対策規制の一部緩和及び警戒状態宣言の延長

4月21日、政府は閣議を実施し、新型コロナウイルス感染症に関し、高齢者宿泊施設及び医療機関、公共交通機関を除く閉鎖空間におけるマスク着用義務の撤廃や上記施設訪問時のEUデジタル証明書の提示義務等、一部規制の緩和を発表した。

措置の緩和に関し、テミド保健大臣は「これら措置の撤廃は、自宅に感染者がいる場合など、マスク使用が推奨される特定の状況におけるマスク使用を妨げるものではない。本措置の撤廃は、ポルトガルにおける感染症流行状況に関する前向きな進展及び入院患者及び死者数の安定により決定された。」と国内感染状況の改善に言及した。

★第三次コスタ政権、政府プログラムの発表

4月1日、政府は、第3次コスタ政権の政府プログラムを発表した。

同プログラムでは、①2022年度予算案に組み込まれた家庭・企業支援策の確実な実施、②今後4年間、欧州平均を上回る成長を継続することを目標とし、家計経済から企業支援に至るまで、国の復興に奉仕するタスクフォースとなること、③新世代と子育て世帯のためにアクセス可能な価格帯の住宅を保証し、尊厳ある仕事を確保すること、④公共性と質の高い保健と教育投資及び

提供サービスの拡大・改善を通じて国が直面する新たな問題への対応力の強化と効率化すること、を基本公約として掲げている。

ヴィエイラ・ダ・シルヴァ閣議大臣は「政府プログラムは第1次コスタ政権時に承認された『10年のためのアジェンダ』の目標を継続するものであり、引き続き、気候変動、人口減少、デジタル移行、社会的不均衡、が重要課題となる。また、プログラムには、ポルトガル復興強靱化計画で定められた投資と改革が含まれる他、安定化プログラムにおけるマクロ経済の今後の見通しに基づき調整された。更に、ロシアのウクライナ侵攻という国際情勢を踏まえており、パンデミック対策ならびに成長、発展、EUへの収斂の道を追求する。」と同プログラムの内容を説明した。

●レベロ・デ・ソウザ大統領、革命記念日に共和国議会で演説

4月25日、ポルトガルは48回目の革命記念日を迎え、レベロ・デ・ソウザ大統領が共和国議会で記念演説を行った。

レベロ・デ・ソウザ大統領は、1974年の革命時に重要な役割を果たし、ウクライナ情勢の影響により安全保障の分野で重要性が増しているポルトガル軍に言及した上で、「なぜ私がこの4月25日に、

我々が日々織りなす民主主義において、我々の軍について話さなければならないのか。なぜならば、強く、連帯のある、意欲的な軍が無ければ、4月25日の夢である我々の平和、我々の安全、我々の自由、民主主義が脆弱になるからである。我々が持つ必要があり、我々が持つことを欲し、我々が持っている軍に関し、我々の国として、ポルトガル人及び社会、公的な力、そして全ての人々にとっての挑戦として考えるべきことは誇張ではない。ポルトガル人が理解せず、参加せず、支持しなければ、成功する公的な力は存在しないからである。自由と民主主義のために、4月25日は我々が生きている今日まで続く基礎となる道を開いている。4月25日の夢が絶えず続くように。そして、ポルトガルがいつまでも存続するように。自由と民主主義よ、永遠なれ。」と革命記念日を祝った。

外交

●サントメ・プリンシペ大統領がポルトガルを公式訪問

4月5日から6日にかけて、レベロ・デ・ソウザ大統領は、サントメ・プリンシペのカルロス・ヴィラ・ノヴァ大統領の公式訪問を受けた。リスボンで行われた歓迎式典の後、両大統領は会談を行い、二国間関係及び二国間協力について意見を交わした。全旅程を終えたヴィラ・ノヴァ大統領は、「大統領就任後最初の外遊先としてポルトガルを公式訪問することで両国の関係の重要性を強調し、更なる関係強化に向けた自身の決意を示したかった。」と今般公式訪問の意義を述べた。

●カレイラス国防大臣、サントメ・プリンシペ国防・国内治安担当大臣と会談

4月6日、カレイラス国防大臣は、リスボンでサントメ・プリンシペのジョルジェ・アマド国防・国内治安大臣と会談を行った。会談では国防分野における二国間協力について話し合われた。両大臣は、両国が継続し、連携強化を目指す各項目に関する情報を交換した。アマド国防大臣はカレイラス大臣の就任を祝い「ポルトガルはサントメ・プリンシペにとって兄弟のような関係であり、

非常に重要なパートナーである。」と述べた。

●コスタ首相、ゴメス・クラヴィーニョ大臣、マカオフォーラム閣僚級会議に出席

4月10日、コスタ首相及びゴメス・クラヴィーニョ大臣は、中国・ポルトガル語圏諸国経済通商協力フォーラム（マカオフォーラム）の閣僚級会議にオンラインで出席した。同フォーラムはマカオ及び北京でハイブリッド形式で開催された。

コスタ首相は「マカオフォーラムは異なった世界の出会いの場である。それは、東と西だけでなく、中国とポルトガル語圏諸国との出会いでもある。このフォーラムはポルトガルと中国の友好関係促進という点において、ポルトガル語圏の経済、商業、文化協力のプラットフォームとして重要な役割を担っている。マカオ返還以降ポルトガルと中国の間で深められた道のりであり、その合意基盤を維持すべき模範的な過程でもある。」と同フォーラムの意義について述べた。

また、ゴメス・クラヴィーニョ大臣は、「マカオフォーラムはマカオ特別行政区及びポルトガル語圏諸国の架け橋であり、対話、協力及び協働を中心とした多国間の目標を構築するための有用性を備えた手段でもある。マカオフォーラムはこの唯一のプラットフォームの役割の確認と、より多くのことを共に行う意思を示すための機会を構築する。」と同フォーラムの役割を強調した。

●ポルトガル軍、NATO東方強化ミッションに参加

4月15日、NATOルーマニアミッションに参加するため、ポルトガル軍から222名の兵士がルーマニアに派兵された。同ミッションはロシアのウクライナ侵攻を受け、NATO東方での警戒活動を強化するものであり、ミッションに参加するポルトガル軍は機動歩兵部隊及び特殊作戦部隊で構成される。

コスタ首相は、派遣される兵士に対しビデオメッセージを発出し、「ポルトガルは改めてNATO及び東方地域の国々に対し確固たるコミットメントを表明する。この重要な任務に向け最善を尽くし、成功を収めることを願う。」と激励した。

●ブルガリア大統領がポルトガルを公式訪問

4月12日から13日にかけて、レベロ・デ・ソウザ大統領は、ブルガリアのラデフ大統領の公式訪問を受けた。ポルトで行われた歓迎式典及びモレイラ・ポルト市長主催の昼食会の後、両大統領は会談を実施し、二国間関係及び両国国内情勢、ウクライナ情勢について意見を交わした。

ラデフ大統領は歓迎式典後「今こそ団結を示すことが重要であり、ブルガリアとポルトガルの友情関係には深い象徴性がある。もし、欧州の東西両端に位置する国同士が協力し、友人となり、欧州の将来について共に考えることができれば、それは家族であるEU全加盟国もできるということを意味している。」と二国間協力への前向きな姿勢を強調した。

また、レベロ・デ・ソウザ大統領は、会談後の記者会見で「EU、NATO、国連において兄弟である両国が両者の位置の確認を求めることは重要である。ポルトガルは地理的距離によって隔てられる国ではなく、ブルガリアは欧州及び世界の防衛にとって不可欠な存在である。」とブルガリアの重要性を訴えた。ラデフ大統領は、同日レベロ・デ・ソウザ大統領主催の晩餐会に出席し、13日にはリスボンの防衛大学研究所を視察した。

★ゴメス・クラヴィーニョ外務大臣、アンゴラへ初外遊

4月12日から13日にかけて、ゴメス・クラヴィーニョ外務大臣は、外務大臣就任後初の外遊としてアンゴラを訪問した。アンゴラでは、ロウレンソ大統領及びテテ・アントニオ外務大臣と会談を行い、二国間関係及び二国間協力、アンゴラでのポルトガル企業の投資強化について議論した。

会談後、ゴメス・クラヴィーニョ大臣は「ポルトガルとの経済関係を進展させる上で良いビジネス環境である。両国関係の継続的な発展のための意欲と力強い取り組みを強調する。全ての計画は素晴らしく、野心的なレベルを高めることができる。建設業、観光業、エネルギー業、農業において、アンゴラは巨大な潜在性を有している。」と経済面での両国関係発展を期待した。

★ゼレンスキー・ウクライナ大統領、ポルトガル共和国議会で演説

4月21日、ポルトガル共和国議会において、ゼレンスキー・ウクライナ大統領によるオンライン演説が行われた。議場には、サントス・シルヴァ共和国議会議長に加え、レベロ・デ・ソウザ大統領及びコスタ首相が臨席した。

ゼレンスキー大統領は「我々が求めていることは単純なことである。ロシア軍を街から追い出すために、自分たちを力強く守るための武器が必要なのだ。EUによるロシア産石油の禁輸を守り、他国と協力してロシアの銀行システムを遮断することを望む。制裁の加速と強化、軍事的支援への更なる協力を貴国に訴える。」とポルトガルへの継続的な支援を求めた。

●ゴメス・クラヴィーニョ外務大臣、インドを訪問

4月26日から27日にかけて、ゴメス・クラヴィーニョ外務大臣は、インドを訪問し、インドのジャイシャンカル外務大臣と会談を行った。会談では主に二国間関係について話し合われた。インド訪問後、ゴメス・クラヴィーニョ大臣は報道陣に対し、「両国関係は非常に素晴らしく、政治関係も非常に良好である。文化、経済、科学、教育、モビリティの面でも関係を発展させる余地があり、お互いに発展させる意思がある。我々は野心を共有していると感じている。」と今後の関係強化に対する期待を述べた。

●ロシア外交官10名を追放

4月5日、ポルトガル外務省は、在ポルトガル・ロシア大使館の外交官10人を追放する旨、発表した。ポルトガル外務省は、「外務省は、駐ポルトガル・ロシア大使に対し、国家安全保障に反する活動を行う同大使館員10人をベルソナ・ノン・グラータと決定したことを通知した旨報告する。これら10人にはキャリア外交官は含まれない。対象10人は2週間以内に国外退去することになる。ポルトガル政府は、ウクライナ領土における露の攻撃に対し、断固として厳しく非難する旨改めて表明する。」とポルトガル国内でのロシア外交官の工作活動及びウクライナ情勢における同国の行動を非難した。

経済

★国内物価上昇に伴う政府臨時対策パッケージの発表

4月11日、政府はウクライナ情勢の経済・社会的影響の軽減を目的に、即応的な臨時対策パッケージの実施を決定した。同パッケージは、①エネルギー価格上昇の抑制、②生産支援、③家計支援、④エネルギー転換の加速、の4項目を軸とした18の支援措置から構成される。同パッケージは即応性重視の下、インフレ圧力の回避と企業及び家計の保護に焦点を当てており、前政権時に承認された企業及び家計に対する既存の臨時措置が包含された。

ヴィエイラ・ダ・シルヴァ閣議大臣は会見で、「欧州での戦争は、人道及び経済的な面から、社会的結束の破壊という壊滅的な結果をもたらしている。その世界規模での影響は欧州復興の減退、エネルギー価格及び農産物価格の上昇、コロナ禍で既に始まっていたサプライチェーンの崩壊が発生する可能性がとても高い。政府によって承認された各種措置は家計及び企業の保護、社会結合及び経済成長の保証を目的としている。」と同パッケージの意図を説明した。

●6か月連続で消費者物価指数が上昇

4月12日、国立統計院（INE）は2022年3月の消費者物価指数（CPI）を発表した。3月のCPIは5.3%（前月比1.1%増）を記録し、インフレの指標となる食料品及びエネルギーを除いたコアコアCPIは3.8%（前月比0.6%増）を記録した。ウクライナ情勢の悪化に伴うエネルギー及び穀物価格上昇の影響を受け、両数値は6か月連続で上昇した。

●2022年2月の貿易統計の発表

4月8日、国立統計院（INE）は2022年2月の貿易取引量の変化に関する数値を発表した。2月の貿易取引量は、前年と比較し、輸出が20.3%、輸入が42.3%増加し、2020年2月との比較でも、輸出及び輸入がそれぞれ23.2%、26.3%とパンデミック前の数値を上回った。特に工業製品は輸出が30.8%、輸入で44.2%と増加し、2020年2月との

比較でも、それぞれ38.8%、47.9%増加した。貿易赤字は、前年同月から14億1,200万ユーロ増加し、21億5,400万ユーロとなった。石油及び化学製品を除いた数値では、前年同月よりも8億700万ユーロ多い、12億7,600万ユーロとなった。

●短期国債の入札

4月20日、ポルトガル国庫公債管理庁（IGCP）は、3か月物短期国債を4億5,100万ユーロ（平均利回り0.655%）及び1年物短期国債を8億ユーロ（平均利回り0.314%）発行した。落札額は、3か月短期国債が13億7,900万ユーロ（応札倍率3.06倍）、1年短期国債が16億9,500万ユーロ（応札倍率2.12倍）となった。

●ODA供与額の発表

4月12日、OECDは2021年度の国別ODA支出額速報値を発表した。ポルトガルのODA支出額は3億8,000万ユーロとなり、2020年支出額と比較し、4%増加した。二国間援助支出額は1億3,700万ユーロとなり、モザンビークへの供与が一番多く、ギニアビサウ、東ティモール、サントメ・プリンシペ、カーボベルデの順で支出された。

多国間援助支出額は、2億4,300万ユーロとなり、2020年支出額から2,100万ユーロの増加となった。パンデミックの影響を軽減させ、パートナー国の経済・社会回復の基盤を築くためのEU及びアフリカ開発銀行の取り組みにポルトガルも参加したことが、多国間支援支出額増額の要因となった。

★2022年第1四半期GDPの発表

4月29日、国立統計院（INE）は2022年第1四半期のGDP速報値を発表した。2022年度第1四半期のGDP成長率は、前年同期と比較し11.9%増加し、2021年第4四半期と比較し2.6%増加した。個人消費の増加及び観光産業の回復が経済成長の要因となった。

（了）